

色々な材質の貯水槽

ビルやマンションの飲料水を貯めている水槽は色々な材質で作られていることをご存じですか。

現在は繊維強化プラスチック（FRP）製の水槽が多く使われていますが、ほかに鋼板製、ステンレス製などもあります。鉄筋コンクリート製の水槽は、地下式受水槽の設置が認められていた昭和51年頃まで多く作られていました。

それぞれの水槽には、材質の違いによる特徴があります。

FRP製は、軽量で腐食に強いため普及していますが、紫外線により劣化しやすく、地震などの大きな力で壊れることがあります。

鋼板製は、強度があり地震にも強い反面、重く、錆が発生しやすいなどの欠点があります。しかし、近年では鋼板に樹脂コーティングが施され、腐食に強くなりました。

ステンレス製は、ステン（＝錆や汚れ）＋レス（＝より少ない）という言葉の通り腐食しにくく、地震などにも強く、一部の学校や公的な施設で使用されていますが、高価なこともあり一般的にはあまり普及していません。

鉄筋コンクリート製は、建物の地下などのコンクリート部分に直接貯水する方式です。経年劣化や地震等で亀裂が入っても気づきにくく、過去には汚染事故につながったこともあり、設置できなくなりました。

ほかにめずらしい材質の水槽として木製があり、杉材がよく使われています。地震に強く断熱性もあり、空港やホテル、庁舎等に設置されています。

このように色々な材質の水槽がありますが、どんな水槽でも『定期的な水槽の掃除』と『定期的な点検』の実施がなければ安全な飲料水は確保できません。

当研究所では安全安心な飲料水の確保に関するご相談をお受けしています。ご利用ください。